

第 1 3 回 網走開発建設部 総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	平成24年11月13日(火) 網走開発建設部 第1会議室		
委員	黒瀧 秀久(東京農業大学教授)、高橋 清(北見工業大学教授)、 三上 修一(北見工業大学教授)、渡邊 康玄(北見工業大学教授) (五十音順)		
議事	<p>1 平成24年度総合評価落札方式等の変更点について</p> <p>2 平成24年上期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況について</p> <p>3 新たな総合評価(施工能力評価型)の試行について</p> <p>4 個別審査</p> <p>①平成24年度 総合評価落札方式実施工事(標準Ⅱ型)の事後審査について</p> <p>②平成24年度 総合評価落札方式実施工事(簡易型)の事後審査について</p> <p>③平成24年度 総合評価落札方式業務(標準型)の事前審査について</p> <p>④平成24年度 プロポーザル方式業務(簡易公募型)の事後審査について</p>		
委員からの意見・質問、それに対する回答等			
	意見・質問	説明・回答	
	<p>1. 平成24年度総合評価落札方式等の変更点について</p> <p>2. 平成24年上期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況について</p> <p>・13回の審査会に至るまでの課題や従来の制度で出てきた問題点及びこれらを踏まえて新しい制度に変えた効果などを説明して欲しい。</p> <p>・より工事の品質が高い工事の発注が行われてきていると理解して良いか。</p> <p>・逆転率について、価格点は何点なのか。また、価格と評価の順位を比較したものはあるのか。</p> <p>・入札の評価値に入札金額を加算するのか。</p> <p>3. 新たな総合評価(施工能力評価型)の試行について</p> <p>・ヒアリングにより技術者を評価する方式は良いことと思うが、試行に当たり発注者側の負担が増えているのかどうか。また、ヒアリングに当たり各社に同じ様な質問をして同様な評価が出来るか等の疑問も含め、「メリット・デメリットにつ</p>	<p>・平成19年度から総合評価の見直しをしてきている。技術評価の配点については平成19年度の10点から平成24年度の37点へ徐々に増やし技術力を重視している。その見直しの効果として価格2位以下の者が落札者となる割合(逆転率)が多くなっている傾向が見られる。</p> <p>・そのように認識している。</p> <p>・各社の評価点は基礎点と加算点を合計欄に示している。また、入札価格欄に入札金額が示されている。なお、評価点を入札金額(億円)で除した値が評価値(1億円当たりの点数)である。</p> <p>・評価点を入札金額で除し、評価値を算出して最も高い社が落札者となる。</p> <p>・ヒアリングの負担はある。平成25年度は全ての工事でヒアリングを行うのではなく工事内容等を考えて実施することとなる。なお、平成25年度に向け今回の試行結果を踏まえアンケート調査を実施しているところである。</p>	

<p>いて考えておくことが良いのでは」という感想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の試行で全道的に意見がまとめられるのか。 <p>4. 個別審査</p> <p>① 平成24年度 総合評価落札方式実施工事(標準Ⅱ型)の事後審査について 一般国道39号 北見市 北上舗装工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンタブロ試験とはどのような試験か。 ・通常の舗装と比べ骨材は飛びやすいのか。 ・技術提案は平坦性、浸透水量、カンタブロ損失の項目であるが、各社の提案値の差が小さい割に評価点の差が大きいのでは。 ・平坦性では0.05mmが1点のウエイトとなるが、基準値2.3mmに対し提案値が過度すぎると費用にも影響するのでは。 <p>② 平成24年度 総合評価落札方式実施工事(簡易型)の事後審査について ウトロ漁港 人工地盤建設工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案書においてアンダーラインで評価されている記述の評価基準はあるのか。 <p>③ 平成24年度 総合評価落札方式業務(標準型)の事後審査について 北見河川事務所管内 河川巡視支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価値の算出方法は工事と業務では違うのか。 ・落札率75%は低い方か。 ・評価のキーワードは公表しているのか。 ・地域精通度については国交省で定められているが、地域性が本州と北海道では、組織・面積等に違いがある。地域性の考え方はどのように取り込まれているのか。 例えば災害時の特殊性など重視すべき点があるのではと思うが。 <p>④ 平成24年度 プロポーザル方式業務(簡易公募型)の事後審査について 津別地区 事業計画策定業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全道でアンケートを実施しており、次回の検討会の2月頃までには結果が出る。 ・骨材の飛散抵抗試験である。 ・排水性舗装のため、通常の舗装より剥離し易い。 ・1位満点方式を採用しているため、提案値の最高値は最高配点となり最低値は最低配点となる。 ・絶対評価、1位満点評価とも一長一短はあるが、絶対評価は差が付きづらいため、1位満点方式を採用している。 ・内容が標準的な提案以上であれば評価している。 ・工事は評価点を入札金額で除するが、業務は技術評価点に入札金額を基に算出した価格評価点を加算する。 ・一概に高い低いとは言えないが、本業務は2年国債という性質上、このような結果になったと思われる。 ・公表していない。 ・本省の実施要項で評価項目等が定められてはいるが、地域精通度などは北海道の特殊性を踏まえて、北海道に読み替えて運用している。
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・技術提案で「その他の提案」の取り扱いだが、業務費13百万の中で対応する事で良いか。 ・技術提案の評価の方法は、担当者が提案書を読んで内容を判断し評価しているのか。若しくはあらかじめ提案される事項を予測してその記載があれば評価しているのか。 ・必要条件以上のプラスの提案があった場合は、評価されるのか。 ・想定以上の有益な提案があった場合と必要条件の範囲のものと同レベルの評価になるのか。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合評価の項目に「地域貢献」が有り良いことと思うが、民主党政権になってから公共事業に関しては「コンクリートから人や木材へ」と掲げられている。すぐにとりいう訳では無いが、環境配慮や貢献など環境配慮型社会についての項目を設けてはどうか。開発・保全・環境のバランスが取れた行政政策が求められていることから検討いただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有益な代替案及び重要な指摘がある場合に提案され、有益な提案であれば参考見積も勘案の上、評価する。基本的には13百万の中で考えて貰う。 ・担当者が事前に当該業務に必要な与条件やキーワードを設定し、これらに基づき評価をしている。 ・内容が外れていれば評価出来ないが、内容が求めているものであれば該当する与条件やキーワードに当てはまると思われる。 ・今までの業務の傾向では、提案する側も「これは良い」という提案については「その他」で提案されている。 ・今後、検討していきたい。
---	--